

需要

市場をけん引

老化抑制・免疫活性機能に注目

ホスファチジルセリンと牛の骨髄・マローに市場形成の期待が高まっている。海外で発表されている学術論文が国内の医療機関で行われた臨床試験で、論文通りの機能が裏付けられてきたからだ。背景には、まもなく、三、四人に一人が六五歳以上という超高齢化社会の到来がある。折しも産業界には、IT革命の波が押し寄せてきており、四、五〇歳代の中高年には、柔軟な適応性が求められ、脳の若返りが課題となっている。このPSとマローには、類例のない大脳賦活作用があり、高需要が見込まれそうだ。

大脳賦活素材が高需要の様相を呈している。

背景には本紙四六七号特集「二一世紀はホスファチジルセリン」でもふれたが、



ビジネスマンには企画力が問われる

高齢化社会になるにつれ、三〇〇の三三〇万人以上、痴呆症の問題がクローズアップされてきたからだ。現在、痴呆症の患者は、厚生省の調べでは、一三〇万人だが、一五年後には二六〇万人、二〇年後には、三〇〇万人と推定。在宅の患者数を入れると倍以上の数字が予想されている。

また、本紙で何度も指摘しているが、まもなく、六五歳以上の高齢者が人口の三〇％の三三〇万人以上という、これまで経験したことのない超高齢化社会が誕生する。すでにこの頃では、年金や健康保険は破綻しているか、自己負担率が高いつまらぬ時代となっている。

社会は重税感にあえぎ、高齢者は退職後、悠々自適に生活できる時代は過ぎ去り、現役で働くことを余儀なくされているに違いない。

ここで産業は大幅に進化しないと行かぬ。まさしく企画力が企業の明暗を分け、弱肉強食の時代の到来が濃厚だ。

ビジネスマンは、適応力や創造力が問われ、中高年世代は、受難の時代を迎えたと見える。

高ストレス社会の中、適性の身に付け、柔軟な発想ができるか、どうかを評価の分かれ目となり、労働

大脳の若返りが課題

学術論文を臨床試験が裏づけ

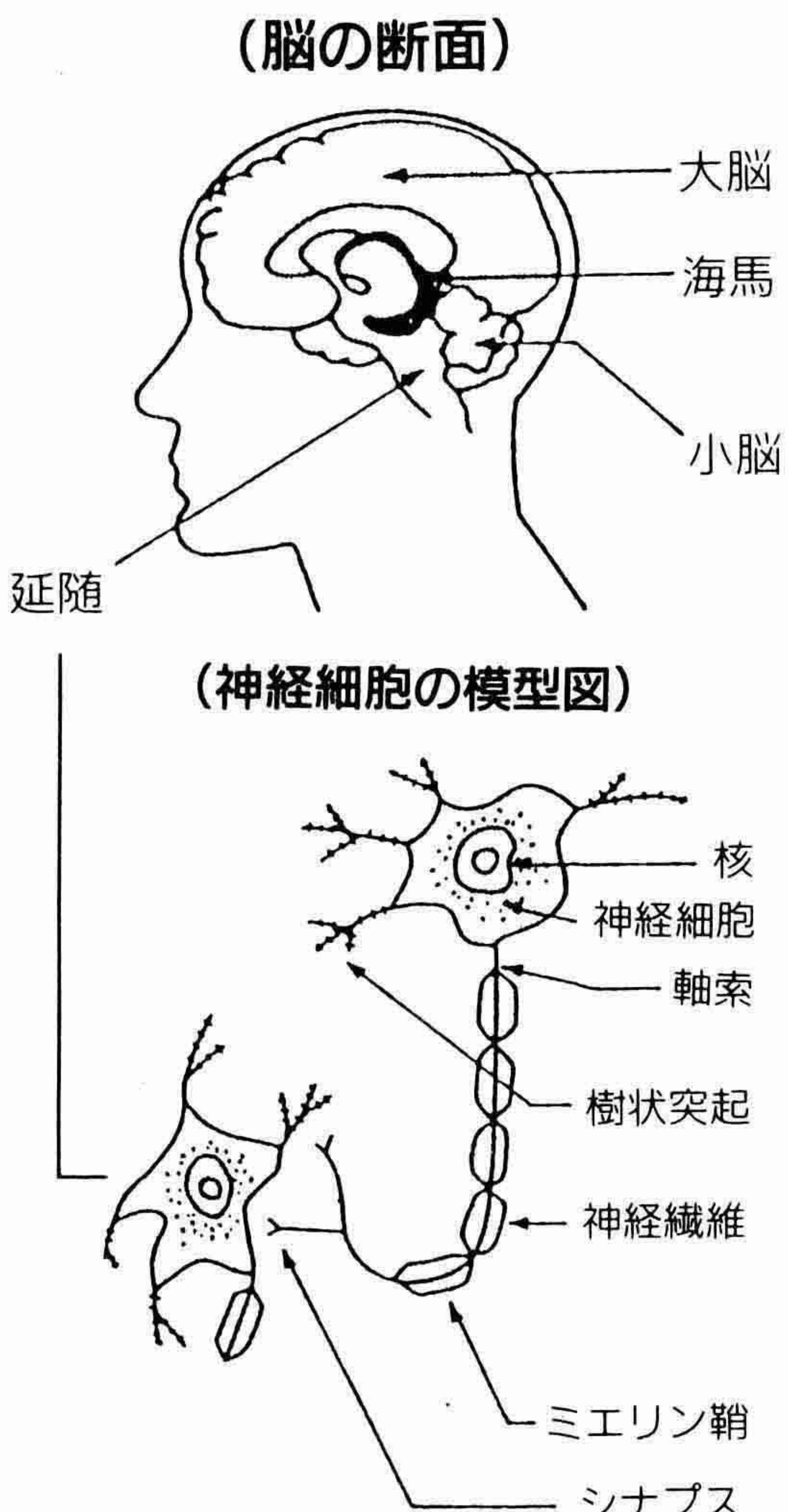
会社は、いよいよ能力主義を強め、給料は業績給となり、所得に格差が開くサイバル時代となっている

大豆抽出物のホスファチジルセリン(以下PS)、牛の骨髄(マロー)エキス

も取り込み、急成長を遂げている素材だ。

PSが記憶力低下を回復する一〇〇以上の薬剤と比較して最善であったことなど

抗うつ作用や精神安定、大脳賦活、抗ストレス、ホルモン分泌の正常化作用などが二重盲検法によって確認されているので、現在、大ヒットとなっているプラ



は、国内市場では、海外と比べ、遅れを取っているが近年になり、臨床試験でこのマローとPSの機能が確認され、海外の研究論文が裏付けられたケース

高い需要が見込める。